

2021年3月22日

全国港湾・港運同盟/「21 春闘勝利」共同アピール

<玉田書記長>

21 春闘は2月17日要求書を提出して、3月9日には第一回答を得ました。港運同盟と合同のビラも配布しました。一次回答はひどいものでした。組合は、批判もし、抜本的見直しを求めました。例年ですと、各地区で統一決起集会を開催して、状況を伝え意思統一を行い、あらためて団結を固めるという取り組みになりますが、コロナ禍であり中々むずかしい状況であります。そうしたことから、全国港湾・柏木委員長と港運同盟・日吉会長、両産別の代表がそろって、各地区の皆さんにアピールを行いたいと考えました。Web という形式ではありますが、改めて意思統一を図りたいと考えております。今のところ、18の地区、職場からの視聴を確認しています。早速、お二人の登場をお願いします。

<柏木委員長あいさつ>

日港協働の回答は、我々の期待を裏切るような内容で、おおいに憤慨しているところでもあります。第3回団交が3月24日に開催されることになっています。この場を借りて、港運同盟会長の日吉さんとともに、21 春闘を前進させるために団結を呼びかけたいと思います。それでは、日吉会長よろしくをお願いします。

<港運同盟日吉会長メッセージ>

「ご安全に！」 ー昨年からコロナ感染が始まり、現在においても収束が全く見えておりません。そのコロナ禍において感染リスクにさらされながら、働かざるを得ない港湾において、日々現場で頑張っている皆さん大変ご苦労様です。従来であれば、第3回中央港湾団交に向けて、統一集会を開催する時期であります。感染防止のために開催することができません。

20 春闘時と時期を同じくして、コロナの爆発的感染が始まり、団交も開けない状況でありました。それから1年余りが経過し、手探り状態の中において現在、蒲田の本部において、オンライン形式による会議が開催できるようになりました。コロナがなければ、このようなことにはならないと思います。コロナ禍は、新たなステップに踏み込むための後押しをしたのかなと思っています。この新たなオンラインコミュニケーションという手段を獲得することになり、よりパフォーマンスが改善され、港湾労働組合として、より団結力と結束力を高めることになるでしょう。

最近、阪神淡路大震災以降、大変な時代になってきたかなと思っています。自然災害もしかり、感染症により多くの方が犠牲になっております。現時点全世界で、1億2千万人が感染し、死者が、220万人になったと報道されています。歴史を振り返れば、何らかの社会的、技術的、経済的な革命のたびに人類は感染症に襲われているという事です。

時間が相当かかるとは思いますが、いずれは収束すると思います。しかし、コロナ以前

の生活には戻れない予感がいたします。

今、私たちはエネルギー供給や医療、公共衛生サービスのように国のインフラを支える公共性の高い、エッセンシャルワーカーとして、位置付けられています。賃金、労働時間を改善し、魅力ある港湾労働を目指し、粘り強く21春闘を勝ち取るべく、頑張りましょう。緊急事態宣言が解除されましたが、気を抜かずにコロナに罹らないよう、そして、事故、怪我をしないよう作業に従事してください。「ご安全に」ありがとうございました。

<全国港湾柏木委員長メッセージ>

こんにちは！組合員・仲間みなさん、21春闘を前進させるために一層の団結を呼びかけたいと思います。現場では、未だに収束の兆しが見通せないコロナ禍の中で、物流を止めることなく、連日連夜、物流の最前線で奮闘されている組合員の皆さんに、心より敬意と感謝を表します。

私たち全国港湾と港運同盟は、「コロナ禍で仕方がない」ではなく、これを乗り越え、現場の苦労に応える21春闘にしたいと決意しています。

21春闘を全国の港湾労働者が力を合わせ、港湾産別制度と港湾関係諸政策の要求実現に全力でたたかい抜くために頑張ることを心より皆さんに呼び掛けます。

21春闘は、重要な局面を迎えています。私たちが21春闘要求に込めたものは、「雇用と賃上げ」という切実な願いだけではありません。

港湾の自動化・機械化や非効率石炭火力発電施設の削減など港湾運送事業の根幹にかかわる問題に対し、日港協がこれをどう捉え、港湾産業の未来をどのように考えるかを問うています。

しかし、日港協の一次回答は、「各社の事情が異なる」「体力や労務構成が違う」として、回答の殆どが「各社対応」や「個別労使協議」というもので、自らの問題として応える姿勢はおろか、それを回避、もしくは否定すると言っても過言ではなかった。

本来、港湾産別労使は、船社・荷主や行政にきっちりモノを言い、理解を求めながら、産業の健全な発展のために必要な施策と対策を長い歴史の中で作り上げてきました。この産別労使関係は、労使が共に生きていく為の不可欠な要件であり、「産別回答を回避する」姿勢は絶対に容認してはならないと考えています。

職場では、人員不足が常態化しており、過密・過重労働が続いています。加えてコロナ禍で、命と健康への不安と背中合わせの作業を強いられています。

このような状況に対して、「賃上げゼロ」、「統一条件は困難」というように、現場の苦労を顧みない理不尽な回答を出してきているのです。

日港協は団交では、「要求を真摯に受け止める」と前置きしますが、回答は真逆です。個別に協議で環境を整えようとするれば、企業間競争とユーザーの圧力で、結果として労務コスト切り下げへと向かうことは、火を見るより明らかです。だからこそ、産別労使が集団的な労使関係の中で働くルールである港湾労働秩序の規範を作ってきたのです。

組合員の皆さん、今こそ労働組合の出番です。そして、頑張り時です。

この状況を打開するには、組合員の産別結集と団結が是非とも必要です。本来ならば私達が直接出向いて春闘討論集会や決起集会等で訴えたいところですが、現状各地区においても三密を避けるため規模の縮小や自粛をされていて非常に残念な状況となっております。要求実現にむけ現状を打開し、21春闘の前進に向かって共に頑張り抜くことを強く呼びかけましてメッセージとします。

共に頑張りましょう！

<玉田書記長>

どうもありがとうございました。皆さん港湾産別を代表するお二人の、熱い思いを、今の気持ちとして受け止めていただけたでしょうか。

この思いを是非とも職場の皆さんにお伝えください。可能ならば、夕方の職場集会や昼休みの時間い合わせて開催すればよかったかもしれませんがこうゆう時間帯になり、申し訳ありません。繰り返し申しますが、この二人のメッセージを受け止めてください。そして21春闘はいよいよ、重要な局面を迎えます。改めて産別に団結していただき、21春闘前進に向けて、共に頑張りたいと思います。第3回団交は3月24日に開かれます。そこでどうゆう局面が開かれるか、その局面を打開する力は皆さんと一緒に頑張ってたたかう産別の力です。このWebの集会のまとめに当たりまして、委員長・会長に「団結ガンバロー」のこぶしを掲げていただき、このWebのまとめとしたいと思います。現場の皆様もご唱和願います。それでは、団結用意！

「21春闘勝利に向けて、団結ガンバロー！！」

※なお、下記の方法により閲覧(ダウンロード可)することができます。メッセージは、3月末日(以降削除します)までとします。地区・職場での活用をしてください。

「One Drive」にアクセス → メールアドレス「 kashiwagi@zenkoku-kowan.jp 」 → パスワード「Ttoriyama1951」を入力 → 「画像」をクリックする。
--